



損保ジャパン日本興亜 環境財団ニュース

Vol. 7

2018年6月

発行者／公益財団法人損保ジャパン日本興亜環境財団

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 TEL：03-3349-4614 FAX：03-3348-8140

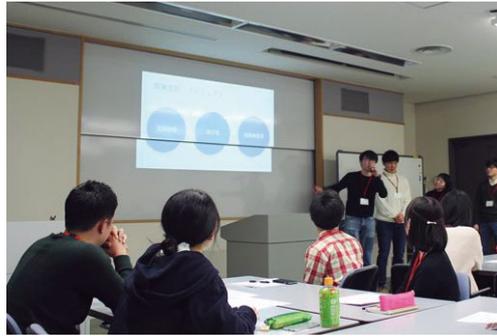
URL：https://sjnkef.org/ E-mail：office@sjnkef.org



Sompo Japan
Nipponkoa
Environment
Foundation

1. 「2017年度CSOラーニング制度」第2回全国合宿及び修了式の開催

2018年3月8日、大学生・大学院生のための環境NPO・NGO長期インターンシップ「CSOラーニング制度」の第2回全国合宿を損保ジャパン日本興亜守谷研修所で開催しました。合宿では、学生同士がインターンシップで得た学びを振り返ったり、8か月間の活動を通して築いてきた友情をより深めたりする姿が見られました。



地区ごとのプロジェクト成果を発表



財団理事・評議員を前に活動報告

翌日には修了式を開催し、学生たちはスーツ姿に身を固めて、財団の理事・評議員を前にCSOでの活動報告を行いました。代表スピーチに選ばれた5名と地区ごとに取り組んだ自主プロジェクトの代表となった愛知地区の学生が、堂々とそれぞれの活動を語ったうえで、これからの自分たちについての思いや夢を発表し、8か月間の活動を締めくくりました。



グループに分かれてインターン活動を振り返り



出席者全員で記念撮影

修了生の声(修了レポートから)

【活動を振り返って】

- 「一緒に頑張ることのできる仲間がいたから、8か月間活動を続けることができました。彼ら、彼女らと交流することが、自分のモチベーションの維持につながったとともに、大きな刺激となりました。」(大学3年・女性)
- 「信念をもって自分の人生を選択し、道を切り拓きながら仕事をしている人たちを間近で見ることができて、自分も彼らのようでありたいと思いました。」(大学院修士2年・女性)
- 「たくさんの魅力的な人たちと出会い、自分を見つめ直すきっかけをもらいました。その中で、こんな自分でも社会のためにできることがあるのかもしれないと思わせてくれました。」(大学院修士1年・男性)

【今後の活動】

- 「活動を通して、「食」への関心が非常に高まりました。今度は様々な人に「食」に対して関心を持ってもらうため、農業の現場へ連れていく活動をしたいと思います。学生団体を立ち上げて、自然栽培を行っている方のところへ行く予定です。」(大学3年・女性)
- 「NPO・NGOの方たちの活動に直接関わるといより、様々な人たちにNPO・NGOの方たちの活動を知ってもらい、活動をサポートしたり促進してもらえるような取組をしたい。」(大学3年・男性)



理事・評議員との意見交換

2. 「学術研究助成」では博士号の取得を支援しています

2015年度に助成金を受けてこの度見事に博士号を取得された宇治梓紗さん(京都大学大学院)にお話を伺いました。

Q1. 博士論文の内容について教えてください

2013年に締結された「水銀に関する水俣条約」において、条約の有効性を高めることが期待できる三つの制度が誕生しました。過去の環境条約ではこれらの制度に合意することは政治的に困難であることを踏まえ、本研究では、なぜ国々はこれらの制度に合意できたのか、その謎を解明しました。水俣条約の交渉過程を精緻に分析した結果、有効な環境条約を形成する鍵として、①交渉国による過去の環境条約の経験からの学習を国際機関が促進すること、②先進国の国内政策が一定程度熟した段階で条約を締結すること、を指摘しました。

Q2. 当財団の助成金はどのような点で役に立ったのでしょうか?

助成をいただき国内外に足を運べたことで、博士研究を研ぎ澄ますことができました。第一に、水俣条約に関わる日本政府の政策担当者および国際機関の担当者に、聴き取り調査を行いました。政策現場の知見を得ることで、交渉資料や



国際学会での研究発表

文書にのみ基づく机上の空論ではなく、現実に即した分析を行うことができました。第二に、複数の国際学会で博士研究の成果を報告し、国外の学者との議論を通じて、研究を深めることができました。

Q3. 今後のご予定を教えてください(研究先、目指すものなど)

今後は、引き続き政治学の視座から、気候変動問題を含む国際環境問題を学術的に研究すると同時に、大学で教鞭をとる予定です。研究テーマとして「国際」問題を扱う以上、研究成果を世界に発信することが使命であると感じており、国外の研究者との共同研究にも積極的に携わりたいです。また学術への貢献にとどまらず、書籍等の出版を通じて一般の方々にも、国際環境問題の理解と解決への何らかのヒントをお示しできたらと思っています。最後に、学者としてのスタートを温かく支援して下さった貴財団の皆様に、心より感謝を申し上げます。

博士号取得おめでとうございます。益々のご活躍をお祈りいたします。



宇治先生

3. 2018年度市民のための環境公開講座が開講します!

当財団が、公益社団法人日本環境教育フォーラム、損害保険ジャパン日本興亜株式会社と協働で開催している「市民のための環境公開講座」。2018年度は、「生きものの変化と気候変動を知る」、「消費とごみの問題から環境を考える」、「わたしたちの暮らしをシフトする」の3つのパートに分け、合計9回開催します。

●会場：損保ジャパン日本興亜本社ビル ●時間：18:30~20:15 ●詳細・お申し込み：https://sjnkef.org/course/course.html

●●● 市民のための環境公開講座 講座一覧 ●●●

PART 1

生きものの変化と気候変動を知る

●7月24日(火)

暑くなる地球と生き物の暮らし

共同通信社編集委員 井田徹治氏

●7月31日(火)

小さいヤマネの不思議探検から
森と人との在り方を見る

ニホンヤマネ保護研究会会長、関西学院大学教育学部教授
一般社団法人アニマルバスウェイトと野生生物の会会長 湊 秋作氏

●8月7日(火)

生き物が直面する環境変化
“気候変動による生き物への影響を「多面的」に考える”

世界自然保護基金(WWF)ジャパン/気候変動・エネルギーG 市川大悟氏

PART 2

消費とごみの問題から環境を考える

●9月11日(火)

食品ロスとはなぜ生まれるのか

株式会社office 3.11・ジャーナリスト 井出留美氏

●9月18日(火)

羽毛のリサイクルを通じた新価値創造
~100年以上再利用できる循環資源~

特定非営利活動法人 明日育 常務理事・事務局長
一般社団法人Green Down Project 理事長 長井一浩氏

●9月25日(火)

石貨の島から見える日本と世界のゴミ問題

早稲田大学教授、特定非営利活動法人
エコプラス代表理事 高野孝子氏

PART 3

わたしたちの暮らしをシフトする

●11月6日(火)

SDGsについて「知る」ことで、新しい暮らしをデザインする
~学校×SDGs から 地域×SDGsへ~

東京都立武蔵高等学校・附属中学校生物科教員 山藤旅間氏

●11月20日(火)

持続可能な社会の実現
~イオンの挑戦~

イオン株式会社 グループ環境・社会貢献部 部長 金丸治子氏

●12月4日(火)

市民工房=ファブラボから始める解決モデル
~専門家にならないススメ~

ヒッピー テンダー(小崎悠太)氏

特別講座

●10月 「クリエイティブ・リユース ワークショップ」
有限会社アイデア代表取締役・ミュージアムエデュケーションプランナー 大月ヒロ子氏

●12月 「味噌玉保存食づくり」
味噌ソムリエ 吹留純子氏

※詳細は決まり次第WEBでご案内いたします。